

1月～2月のりた

※一部3月開催事業あり

- 時 開催時間 対 参加対象
- 所 開催場所 申 参加方法
- ¥ 参加費 持 持ち物
- 定 定員(選択方法)

1/19 防災啓発ドキュメンタリー
「いつか君の花明かりに
は」上映会

若者、教育者、子どもを持つ親など、日本全国の防災意識向上を願う人々の声を集め、さまざまな年齢層に防災の大切さを伝える映画を上映。小川監督のトークあり。

- 時 10:00～11:45 (9:30開場)
- 所 やはぎかんホール
- ¥ 無料 定 200名(当日先着順)

NEWS

りぶら市民活動センター【NPO講座】

子どもの遊び場を中心に 地域がつながる ～プレーパークや森のようちえんの事例から～

東海地方を中心にプレーパークの普及に携わっている第一人者・塚本岳氏を講師に招き、講座を開講します。「子どもたちがのびのび育つ環境や、みんなが暮らしやすいまちをつくりたい！」そんな思いを実現するヒントが得られます。

日時 2019年1月19日(土) 10:00～12:00

場所 図書館交流プラザりぶら 会議室301

対象 関心のある方なだでも
※お子さん同伴OKです。託児あり(有料、要予約)

定員 50名(先着順)受付期間: 12月21日(金)～
※空きがあれば当日参加も可

申込 りぶら市民活動センター
TEL 23-3114 FAX 23-3142

●講師を囲んでの「ランチミーティング」10:00～14:00

ランチミーティングは要予約。昼食はご持参ください。

2/16 まち育てスクール
～緑の丘を歩こう
(文教地区と歴史地)～

緑丘学区の歴史散策。三河一向一揆後に再建された本宗寺をはじめ、愛知県立農業大学校 追進館、馬頭観音寺、馬頭神明宮を巡ります。

- 時 9:00～12:30(予定)
※小雨は決行、雨天の場合は2月17日(日)に順延
- 所 緑丘学区市民ホーム玄関前 集合
- 定 20名(抽選)
- 申 事前によりなんにお申し込みください。
申込期間:平成31年1月8日(火)～31日(木)
※期間終了後、抽選にて参加者を決定します。

2/17 乙川リバーフロント
QRUWAシンポジウム

乙川リバーフロントまちづくりの取り組みを振り返り、来年度を展望します。

- 時 14:00～16:00
- 所 図書館交流プラザりぶらホール
- ¥ 無料
- 定 200名(当日先着順)

2/24 4周年
ゆきフェスタ

悠紀の里の周年記念イベント。公益活動団体や個人の成果発表の場として、歌やマジックなどステージでのパフォーマンスや、作品や活動内容の展示などが行われます。雑貨や食品の販売もあります。

- 時 10:00～15:00
- 所 悠紀の里 全館 ¥ 無料(一部有料)
- 申 直接悠紀の里へお越しください。

3/2 岡崎カメラがっこう
トークライブ

「小豆島カメラ」から講師を招いて実施した岡崎カメラ学校(全2回・募集締切済)。この講座で出会った岡崎の人やまちの魅力について振り返るトークライブを行います。(※受講者でなくても参加いただけます。)

- 時 13:30～15:30
- 所 Camping Office osoto
(能見通1-61ウメムラビル1F)
- ¥ 無料 定 50名(抽選)
- 申 <https://citypromotion.okazaki-kanko.jp/news/27>
申込期限:平成31年2月8日(金)

おなかも心も満たされる・市民活動の祭典 まち育! 入場無料 フードフェスタ

地域交流センターと市民活動センターが、公益的な活動を行っている団体と協力して開催する、見て・知って・食べて、そして楽しめる市内の市民活動団体が大集合するイベントです!

29 **11** **6** 2019年2月3日(日)
11:00～14:00
図書館交流プラザりぶらホール
岡崎市康生通西4丁目71番地

主 催:岡崎市
企画・運営:岡崎まち育てセンター・りた
問 合 せ:岡崎まち育てセンター・りた[りぶら支局]
TEL 25-6345 FAX 23-3142(水・日・祝休)

お問合せ	よりなん	59-3600	むらさきかん	66-3066	市民活動センター	23-3114
なごみん	やはぎかん	33-3665	悠紀の里	57-5050	まち育て推進チーム	23-2888

まちのミカタ

Litaracy

2019.01 vol.96

発行・編集

特定非営利活動法人
岡崎まち育てセンター・りた

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6
TEL(0564)23-2888/FAX(0564)23-2898
<http://www.okazaki-lita.com/>
<https://www.facebook.com/okazaki.lita/>

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra/岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所/岡崎市各市民センター/シビックセンター/
FMおかざき/杉くんの駄菓子屋/angelshare/
コミュニティ・ユース・バンクmomo/cafeくらがり/
CAFE&TABIBOOKS隠れ家/長善館/松應寺

まちのミカタ

Litaracy ーりたらしいー

96

2019年1月



特集

【乙川再考】 まちなかの自然と暮らす

私たちは自分が暮らすまちのことをどれほど知っているのでしょうか。

かつては自分たちの地域を取り巻く環境や文化、風習を知らずして、暮らしは成り立ちませんでした。しかし今ではそういったことを知らなくとも、何不自由なく過ごすことができます。ただし、身の回りのことを知らなくともすむ代わりに、人々のつながりが希薄になっていたり、少しずつ災害リスクが大きくなったり、自然環境や生態系の変化に気づきにくくなったりします。

暮らしの中で目にする動植物の一つひとつは固有の種です

が、私たちは単に「鳥」「虫」「魚」「草」としてしか認識していないことが多いのではないのでしょうか。それは、「人間」を「哺乳類」として認識しているのと等しいと言えます。

逆に私たちがまちで出会う「鳥」や「魚」が何であるのか関心を持つと、その生態や特徴から背景にある環境の豊かさやありがたみを実感することができます。

今年で3年目を迎えた「おとがワ!ンダーランド」で得られた成果の一つとして、まちなかの自然の意味について掘り下げたいと思います。

私たちが「持っているもの」を知る -乙川がつないでいるもの-

●3年目のおとがワ！ンダーランド

りたは、乙川の水辺空間活用を促進する「おとがワ！ンダーランド」に取り組んでいます。昨年度までの2年間の社会実験を経て（1年目、2年目の概要については本誌82号、89号を参照）、実施主体が岡崎市から「おとがワ！活用実行委員会」に移り、りたは引き続き当実行委員会の事務局を担っています。

1年目は、7月下旬から9月上旬までの1か月半に集中的にプログラムを実施し、天候や増水リスクなど、河川敷ならではの特性を踏まえ、市民主体でどのような使い方ができるかを試すと同時に、水辺活用の担い手発掘を図りました。2年目は、実施期間を約半年間（7月下旬～1月下旬）に広げることで、プログラムに適した時期を選んでもらえるようになり、プログラム間の連携や、朝市、ナイトマーケット、星空観望会など、月に1回以上行われる定期プログラムが生まれました。

今年度、民間主体に移行したとはいえ、経済的にはまだ公的支援がなければ、水辺活用の啓発・促進、プログラム実施者の窓口および企画サポートなどの業務が成立しません。そのため、将来いかにして経済的にも体制的にも自立した仕組みが構築できるかが、活用実行委員会として主要なテーマとなっています。

3年目の成果を数字で見ると（右表）、実施団体数・プログラム数共に減少しているものの、実施日数、総来場者数、売上は増加しています。これは、単体で集客が難しいプログラムは、ナイトマーケットなどの複合プログラムに集約されたり、実施を断念されるなどして適性化が進むと同時に、現存プログラムの認知度が上がったことにより集客力が高まった結果と捉えることができます。

●鮎の往来する通り道

今年度から1年間を通して乙川河川敷を使えるようになったおかげで、乙川には季節に応じたいろいろな表情や魅力があることがわかってきました。

乙川の水位は、矢作川に合流する前の堰（乙川頭首工）によってコントロールされており、ゴールデンウィークあたりから10月初旬まで（年によって若干変動あり）農業用水として乙川の水を使うため、堰を閉めて水位を上げています。10月に入ると、鮎の産卵期となり、竹橋付近で孵化した鮎の稚魚が海を目指して下っていくため、堰が開放され、再び鮎が川を遡上する4月まで水位が低くなっています。

10月に入り水位が下がった乙川で清掃をしている際に、ふと「鮎のために水位が下がっているということは、この場所を通っている鮎が見られるかもしれない」と思い立ち、集まった有志で目を凝らして探したところ、数百匹はくだらない鮎の稚魚らしき魚影が確認できました。聞けば、鮎は孵化して3日以内に海にたどり着けないと死んでしまうとのこと。産卵場所の竹橋あたりから三河湾の河口までは約25km。1cmにも満たない体で1日8km以上移動しなければならない計算です。ただでさえ見過ごしてしまいがちですが、その存在に気がつけたとしても、「鮎」ではなく「魚」としてしか認識できなければ、この生命のドラマに思いを馳せることはできません。

●乙川ならではの使い方から価値を見出す

私たちがこれまで水上アクティビティができない「オフシーズン」と捉えてしまっていた水位の低い秋の乙川は、鮎の生態を知り、乙川の上流と下流のつながりを実感できる絶好の環境学習の場であることが「発見」されました。ほかにも、露出した砂地が子どもにとって格好の遊び場になること（表紙写真）も新しい気づきでした。このように、乙川は単なる活動のフィールドだけではなく、乙川がつなげる自然環境や農林水産業とのつながりといった目に見えにくい価値が見出されてきたのが3年目の「おとがワ！ンダーランド」でした。

10月に乙川の水位が下がると、それを見た人たちが「ああ、もう鮎の産卵の季節か」と気づき、紅葉を見て秋の訪れを確かめると同じように、乙川に鮎の稚魚を見に行き季節を感じると共に、自然のつながりなど、自分たちが持っているもののありがたみを知る…。私たちが取り巻く環境の持続性を考える上で、水辺空間を活用することで必要な活動資金を「稼ぐこと」と同時に、その場所ならではの価値を見出し、共有し、皆で大切にしていけることが必要だと考えています。こうした価値を伝え、高めていけるような使い方を、乙川を活用する皆さん、訪れる皆さんと広げていきたいと思えます。

●3年間の実績比較表

	2016年度	2017年度	2018年度
実施団体数	32団体	24団体 (新規団体：13)	20団体 (新規団体：7)
実施プログラム数	34	41	36
実施日数	27日	54日（うち6日は中止）	62日（うち8日は中止）
総来場者数	3,401人	3,844人	約6,860人（暫定値）
売上	2,205,310円	2,440,034円	4,914,050円（暫定値）



▲乙川の夜の風物詩として定着してきた第4土曜日の「乙川ナイトマーケット」



▲毎月第2土曜の河川清掃で集められたゴミ



▲水源地・額田の薪で火をおこし、乙川の上流の水で育てられたお米を食べる炊飯体験（みんなのおとがわ）

11月～12月のりた

市民活動センター

11/10-11-17

りぶらぶらり散歩



図書館交流プラザ・りぶらやその周辺エリアの魅力を多くの方に知ってもらい、いつもと違う楽しさを体感してもらいまち歩きを企画しました。りぶらの設計段階に隠された12の秘密に迫るツアーや岡崎城周辺の伊賀

川・乙川沿いに残る歴史遺構巡りと現在行われている乙川河川敷利活用を体験できるツアーなど全3コースを解説付きで実施。参加した方からは、「郷土の歴史を知ることができて楽しかった」、「河川敷の活用がよく分かった」などの感想が聞かれました。

むらさきかん

11/10-25

むらさき麦の料理教室&食育教室



藤川まちづくり協議会、愛知学泉短期大学と連携。「むらさき麦」を使った大人向けの料理教室や、栄養について学べる子供向けの食育教室を開催しました。

やはぎかん

11/17

まち育てスクール やはぎかん石工団地探検ツアー



親子を対象に石工団地（佐々木町）の工場を巡るツアーを開催。6組26名が参加。くさびで巨石を割る体験などを通じて、岡崎の伝統産業に触れ合う機会となりました。

むらさきかん

11/17

まち育てスクール 秋の額田を歩き、郷土料理を味わおう！



東部地域を巡るまち歩き。全国屈指の規模である万足平（まんぞくだいら）の猪垣の見学、ゆず狩り体験、地元の方手作りの郷土料理などで、東部の魅力を再発見しました。

やはぎかん

11/30

乾物を備蓄し使い回してもしもの時に備えよう！ 【乾物×防災・減災@やはぎかん】



非常時の備蓄として最適な乾物。その特徴を学んだ後は、ワークショップで乾物料理のアイデアを出し合い、実際に食べるなどしました。

やはぎかん

12/1

やはぎ大楽 しめ縄飾りづくり体験



専門知識を持った団体が市民に対して学びの場を提供する事業。今回は障がい者の就労支援を行う、社会福祉法人せきれい彩（さい）の職員による正月のしめ縄飾り作りを行いました。

まち育て推進チーム

12/8

岡崎カメラがっこうトークライブ



岡崎カメラがっこうの講師でもある「小豆島カメラ」のお二人をゲストに招き、暮らす人自身による地域の魅力発信について考えました。50名の方が参加し大盛況でした。

なごみん

12/14

なごみんカレッジ 門松づくり講座



NPO法人おかざきの自然環境を守る会から講師を招き、竹林整備のために間引いた竹で門松を作る講座を行いました。

なごみん

12/15

なごみんクリスマスぶちコンサート



北部地域で活動している団体（3団体）との連携企画。クリスマスソングの演奏のほか、ダンス、パザーなどが行われました。